



# 「元気を出そう—— 頑張ろう東北!」

顧問

植林 茂

(日本銀行山形事務所長)

三月十一日に発生した大震災は、未曾有の大  
きな被害を引き起こし、今もって亡くなられた  
方の人数を特定できていないほか、原発につい  
ても依然予断を許さないなど、厳しい状況が続  
いている。今般の震災で亡くなられた方のご冥  
福を祈ると共に、被害に遭われた方には心より  
お見舞い申し上げます。

ところで、十六年前、私は日本銀行神戸支店  
におり、阪神大震災の直撃を受けた。地元金融  
機関の資金繰りモニターと産業調査を束ねる末  
端管理職として、震災当日から瓦礫だらけの神  
戸の街をかけずり回り、金融特例措置の配布や  
金融機関の状況把握に努めた。その際街中でみ  
た、搬出される遺体を覆った煤けたピンクの毛  
布が未だに鮮明に目に焼き付いて脳裏を離れな  
い。

さて、阪神大震災では、被災直後の電気・水  
道・ガスが全て途絶、情報も隔絶され、経済活  
動が全く停止した状況から、二日目には大手スー  
パーが開き、物流が徐々に改善し、一、二週間  
もすると仮設トイレが作られ、損壊したビルの  
取り壊しが始まるなど、時間の経過とともに事  
態は改善していった。阪神高速や鉄道など物流  
網の回復には時間がかかったが、生産拠点の回  
復は意外に早かった印象がある。もっとも、当  
時いくつか所在していた在外公館(公使館は神戸  
から撤退して一部はその後戻らず、建設需要

を除けば、神戸ファッション、異人館など、そ  
れまで神戸を支えていた消費、観光などの需要  
が以前と同じくらいに回復するまでには随分と  
時間を要したように記憶している。何よりも地  
元の方々は、それまでの豊かな消費スタンスか  
ら超堅実志向へと変わったように窺われた。

翻って今回の大震災についてみると、被災は  
より広域であり、四月初の段階でも、一部被災  
地への支援が不十分と報じられているほか、ラ  
イフラインや物流網の復旧も道半ばである。ま  
た、原発については、残念ながら、厳しい状況  
が長期間続くこととみられる。しかし、事態は時々  
刻々変化する。計画停電や複雑化したサブライ  
チェーンへの対応という問題はあるが、おそら  
くは生産拠点の復旧は、そう遠からず実現でき  
るのではないかと。その次のステップとして課題  
となるのは、エネルギー等の安定供給とともに、  
本格的な需要の回復をどう実現するかであろう。  
阪神大震災の際は、「頑張ろう神戸!」というキャッ  
チフレーズの下、地元財界を中心に「BUY神  
戸」運動を行った。「景気」の「気」の字は、「気  
持ち」の「気」である。生産面の早期復旧にし  
ても、需要の回復にしても、状況の改善のため  
には、まず皆が元気を取り戻すことが何より重  
要に思える。そのためにも、山形のみならず東  
北全体で一致団結して経済を盛り上げようでは  
ないか。